



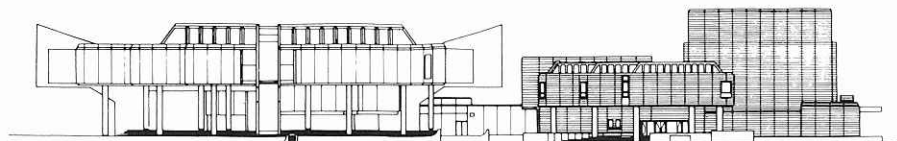
楊柳観音像 鏡神社蔵（佐賀県立博物館寄託）
—「佐賀2000年—名宝の旅」展出品

佐賀県立博物館・美術館報

SAGA PREFECTURAL MUSEUM · SAGA PREFECTURAL ART MUSEUM

18 September 2000

No. 125



展覧会案内 佐賀県立博物館30周年記念企画展

佐賀2000年一名宝の旅 平成12年10月27日(金)~12月3日(日)

はじめに

西暦2000年の本年、佐賀県立博物館は設立30周年を迎えることができました。これもひとえに、当館の日頃の活動、運営に対する皆様方の多大なご支援、ご協力のたまものと、まずもって心からお礼申し上げます。

さて、県立博物館では、この節目の年がおりしも西暦2000年に当たることから、これを記念し、「佐賀2000年一名宝の旅」展を開催いたします。

この展覧会は、弥生時代の青銅器や中世の渡来文物、近世陶磁、近代洋画など、佐賀2000年の歴史を輝かせた特筆すべき文化8章を取りあげそれぞれの時代、文化を彩った名宝で綴りながら佐賀の歴史と文化の特色を明らかにしようとするものです。県民の皆様方には、先人たちが築いたこれらの優れた佐賀の文化を見つめ直し、その神髄を存分に楽しみいただくとともに、これを誇りとし、21世紀に向けた新たな文化創造の糧としていただければと願っています。是非、多数ご覧ください。

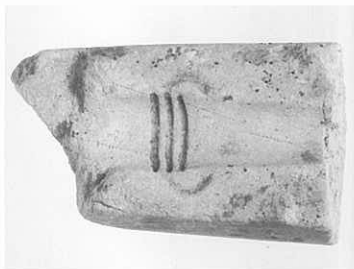
それでは、佐賀2000年の文化を総決算！この展覧会を構成する8章のみどころを紹介しながら佐賀2000年一名宝の旅へご案内します。

I 銅矛と銅鐸

一 佐賀特産青銅器の謎一

2000年前といえば弥生時代真っただ中。佐賀で生み出されたと見られる弥生時代の青銅器3種にスポットを当て、佐賀の先進性と獨創性、そして地域間の交流を検証します。

まず、最古期の青銅器の1つ三条節帯の細形銅矛は従来朝鮮製とされてきましたが、日本では佐賀平野でのみ鋳型が確認されることから、あらためてその発生が問題になっています。また、綾杉



三条節帯銅矛鑄型 (吉野ヶ里出土・文化庁蔵)

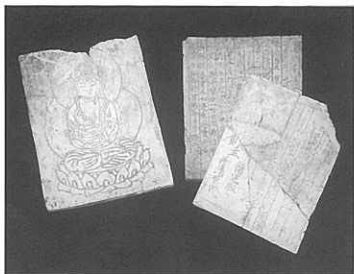
文装飾をもつ特殊な中広銅矛は北部九州から山陰四国に分布しますが、その中心は佐賀平野にあり伝播の背景にある地域間交流が注目されます。多数の青銅器が出土した島根県荒神谷遺跡の綾杉文銅矛も、このたびが初めての“里帰り”です。

さらに、近年、九州で初めて出土した吉野ヶ里遺跡の銅鐸が、同じ鋳型で造られたとされる出雲伝世銅鐸と初めて“兄弟”並んで展示されます。

II 肥前築山瓦経

一 末法のいのり一

仏陀の滅後2000年目に当たる平安時代永承7年(1052)、世は末法の時代に入りました。仏の法力が衰えた暗い世相の中で、人々は56億



肥前築山瓦経 (大和町教育委員会蔵)

7千万年後に弥勒菩薩がこの世を救いに現われるまで仏教の教えを残し伝え、また、そうすることで功德を得たいと願いました。当時、日本各地で行なわれた仏教經典の地中埋納—それが経塚です。

北部九州は全国でも際立った初期経塚の盛行地であり、佐賀県下にも肥前築山経塚や脊振山経塚などに代表される優れた経塚遺宝が多く残されています。県内出土の經典・経筒・瓦経などと合わせて国宝菩提山銅板経や著名な極楽寺経塚資料などを比較展示し、そこに記された信仰や悩み、苦しみなど、不安な時代を生きた人々のいのりの世界をのぞいて見ます。

Ⅲ 楊柳観音像

—海峡往来—

肥前は古くから大陸との交通の要衝でした。松浦から玄界灘を渡り朝鮮半島へ、あるいは行明海から東シナ海を進んで中国へ、それぞれの地域に交流の痕跡を残しながら人々は海峡を越えました。

今日、県下には仏教関係の遺品を中心に、全国的にみても質の高い中国・朝鮮半島からの渡来文物が多く残されています。このコーナーでは、まず、松浦党に代表される海の領主たちの活動や、



楊柳観音像（鐘神社蔵）

『長秋記』に見られる神崎（崎）荘への宋船来航記録など、肥前を舞台とする中世の海外交流の背景と、海峡を往来した人々の姿を、文献資料や絵画資料などで紹介します。

また、彼らの活動によって中国や朝鮮半島からもたらされ、県内に伝来する代表的な美術工芸品を紹介します。中でも圧巻は鏡神社の「楊柳観音像」。高麗仏画第一級の華麗な名品として内外に知られる、縦4mを越える大作です。

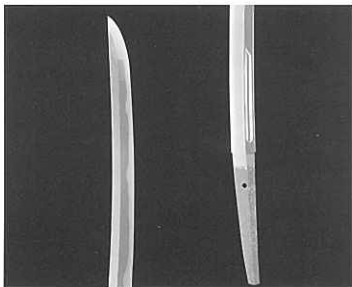
Ⅳ 肥前刀

—葉隠の美—

桃山時代から江戸時代、肥前鍋島藩お抱えの刀工忠吉歴代とその一門が造った刀剣は「肥前刀」の名で呼ばれています。つくりが豪壮で、姿、地肌、刃文いずれも優れて格調が高く、刀剣史の中で重要な位置を占めています。

今回は、初代忠吉をはじめ、忠吉の孫の正広、行広、甥の忠国、忠吉と双璧をなすといわれる宗次ら、肥前刀草創期の代表的な刀工が心血を注いだ名品を選びすぐって展示します。質実を重んじた葉隠武士の美意識をよく示す肥前刀の神髄を存分にご覧ください。また、初代忠吉が作刀を学んだ京都の理忠明寿の作が初めてお目みえし、師弟並んで展示されるのも注目です。

あわせて工芸的にも優れた蒔絵装飾の拵や鍋島勝茂所用の具足なども紹介します。



初代忠吉作刀「慶長五年」銘（館蔵）

V 肥前国産物図考

一佐賀をえがくー

佐賀を歩くと、今日でも、あちらこちらに歴史的景観を残す家並みや田園風景がよく残っています。また、祭り・行事や風俗習慣からも昔の佐賀を偲ぶことができます。近世の絵画資料を中心にそんな佐賀の原風景を訪ねました。

今回の展示では、近世佐賀の景観や風俗を描いた数少ない貴重な作例の中から、江戸時代中期以降の名産図「肥前国産物図考」のほか、桃山時代～江戸時代前期の社寺縁起絵、江戸時代の肥前名所図絵、幕末から明治期にかけて描かれた、民俗行事・芸能を題材とした奉納絵馬などを幅広く紹介します。

これらの絵画を現代に重ねてみることで、見慣れた景観・風俗の歴史を身近なものとしします。



肥前国産物図考「登寮」(館蔵)

VI 肥前陶磁

一国の宝となすべしー

「唐津焼」は16世紀末、文禄・慶長の役で朝鮮半島から渡来した陶工たちによって生産が開始され、茶陶の名品を数多く生み出しました。

そして17世紀初頭、有田泉山での磁器原料の発見により、日本ではじめて磁器生産に成功しました。「有田焼」は色絵磁器の生産にも成功し、17世紀から、オランダ東インド会社からの大量注文が急速な技術革新を促し、量産化や多様化を成し遂げました。そして多くの製品が遠くヨーロ



色絵磁器花様文輪花深鉢(館蔵)

ッパに運ばれました。また、藩は有田皿山を管理するとともに、直営の窯を築き、色絵磁器の最高峰といえる御用品「鍋島(焼)」の名品を数多く生み出しました。

佐賀初公開の名品多数を含め、16世紀～18世紀に焼かれた唐津、有田、鍋島など、肥前陶磁の精華を選りすぐって紹介します。

VII マンドリンを持つ少女

一近代洋画の曙ー

絵画の近代化は、西洋画という新しいジャンルの上に花開きました。明治時代の初めにヨーロッ



百武兼行「マンドリンを持つ少女」

(財団法人鍋島報效会蔵)

バに学んだ佐賀県出身の画家たちがその導入に果たした役割は少なくありません。百武兼行の「マンドリンを持つ少女」、久米桂一郎の「城のある風景」、岡田三郎助の「西洋婦人像」など、それぞれの個性がいかんなく発揮された明治・大正・昭和の名品を選んで紹介します。また、同時代の高木背水は「明治天皇像」を描いたほか、肖像画家として印象的な作品を残しています。

このコーナーでは、西洋へのあこがれを原動力に学び、日本の洋画草創期に活躍した4人の画家たちの作品の中に、佐賀発の近代洋画の原点を探るとともに、画家たちを育てた鍋島家などのパトロンたちの姿も見ることができます。

VIII 帰雲飛雨

一蒼海と梧竹一

佐賀が生んだ明治時代の傑出した書家に中林梧竹と副島種臣（蒼海）がいます。

中林梧竹は幕末に小城鍋島藩士の長男として生まれました。江戸に出て書を学び、その後、中国の古典を基盤に独自の書法を展開し、「明治の書聖」と仰がれました。

一方、副島種臣は明治政府で活躍した元勳の一人としてよく知られていますが、現在では書家・蒼海としてとみに評価が高まっています。平成10年度に当館が開催した「副島種臣」展の感動を思い出してください。大胆かつ豪快で気迫みなぎる書風は時代の空気を感じさせ、また、現代的な造形感覚に通じる独創性をもち、他の追従をゆるさないものがあります。

近代書におけるこの二人の巨人が残した膨大な書作品の中から、それぞれの個性が遺憾なく発揮された名品を選び、扁額を中心に紹介します。



副島種臣「帰雲飛雨」（館蔵）

佐賀県立博物館30周年記念企画展

佐賀2000年一名宝の旅

会期：平成12年10月27日(金)

～12月3日(日)

会場：佐賀県立美術館

入館料：大人620円(510円)

大学生300円(200円)

()は20名以上の団体

高校生以下無料

<企画展関連行事>

■記念講演会 聴講無料

会場：美術館1号A展示室

①11月11日(土)、10:30～12:00

講師：佐賀女子短期大学教授 高島忠平氏
演題「倭国大乱と佐賀」

②11月18日(土)、13:30～15:00

講師：九州大学教授 服部英雄氏
演題「中世佐賀平野に住む・拓く」

③11月25日(土)、13:30～15:00

講師：郷土史家 福岡 博氏
演題「幕末日本と佐賀藩」

■経筒でタイム・メール

10年後の自分に手紙を書こう！ 参加募集

経筒は平安時代のタイムカプセルです。県立博物館では、あなたが自分自身に書いた手紙を「平成の経筒」に納めて博物館の庭に埋め、10年後のあなたにお届けします。多数ご参加ください。

◎応募は企画展「佐賀2000年一名宝の旅」会場で受け付けます。

◎受け付け期間 10月27日～11月26日

◎手紙は便箋2枚までとし、定型封筒に確実に届く宛先を明記し、80円切手を貼ってください。

博物館・美術館 普及活動報告（平成12年度上半期）

佐賀県立博物館・美術館は、地域に開かれた博物館として、他の機関にはない重要な役割を担っています。企画展や常設特別展、テーマ展示や常設展などの展示活動、それに伴う広報はもちろんですが、それ以外にも団体観覧の際のガイダンスや小学生向けのワークシート（館内学習教材）の作成、また県下のいろいろな生涯学習関係の集まりで講演を行うなど、館の内外において博物館と県民の皆さんを結ぶ活動を行っています。

特に本年度は博物館の開館30周年にあたり、新たな博物館のあり方を模索しつつ、いろいろな普及活動を実施しました。長年続いているものから今年始めたものまでさまざまですが、以下、本年度上半期に行った普及活動の概要をご紹介します。

①野鳥観察会「佐賀城公園初夏の野鳥」

日 時：5月27日(土) 10:00～12:00

参加者：5組17名（小学生とその引率者）

講 師：佐賀野鳥の会 山口誠治氏

同 吉原敏郎氏



博物館主催の野外観察会は6年ぶりでした。当日はあいにくの雨で、はじめ屋内でスライドを上映しながら佐賀城公園で見られる野鳥について説明を行いました。後半は外に出て、博物館裏の堀の周辺でマガモやダイサギ、アオサギ、ホオジロ、カワラヒワなどの鳥たちを観察しました。鳥の姿を望遠鏡で見たときの子どもたちの喜んだ顔が印象的でした。

②博物館土曜講座「書画骨董のみかた」

日 時：6月17日～7月8日の毎週土曜日

各日14:00～16:30（8講座連続受講）

参加者：49名（一般成人）

講 師：当館学芸員



「刀剣」の講座で、刀を手にとってみる受講者

昨年からはじめた資料鑑賞のための入門講座です。書画をはじめ陶磁器・染織品・刀剣などの工芸品から、古文書や考古資料まで、実物の資料を間近にしながら、見方のポイントを学ぶことを目的としています。今年度は、下表のようなカリキュラムで4日間・8講座を開講しました。

講義だけでなく、実際に資料を手にとってみたり、クイズを盛り込んだりで、受講者の皆さんには楽しんでいただけたようです。講座終了時のアンケートでは、1講座あたりの時間をもっと増やしてほしいという要望が多く聞かれました。

土曜講座 日程

日	時	テーマ	講 師
6/17	14:00～15:10	書 画	福井尚寿
	15:20～16:30	刀 剣	今川泰靖
6/24	14:00～15:10	古 文 書	本多美穂
	15:20～16:30	土 器	蒲原宏行
7/1	14:00～15:10	染 織	宮原香苗
	15:20～16:30	陶 磁	宇治 章
7/8	14:00～15:10	洋 画	野中耕介
	15:20～16:30	青 銅 器	田平徳栄

③ワークショップ「自画像(じがぞう)をえがこう!」

日 時：7月26日(水)・27日(木)の2日間
 各日10:00～12:00、14:00～16:00
 参加者：194名(主に幼児と小・中学生)
 講 師：鍋島小学校教頭 杉浦建二先生
 当館主事 野中耕介
 会 場：美術館3号展示室



6月28日(水)～7月30日(日)に美術館で開催した常設特別展「こども美術館はひとついっばい!!!」と連動して実施したワークショップです。会場にスペースを設けて、鏡をみながら小さな絵描きさんたちに自分の顔を描いてもらいました。鉛筆の上手な使い方、顔の特徴のとらえ方、構図のとおり方など、講師のアドバイスを受けながら、子どもたちは嬉々としてデッサンに取り組んでいました。できあがった作品はどれもなかなかのできばえで、会期の終わりまで「こども美術館」の会場に展示されました。

④美術館実技講座「石膏デッサン教室」

日 時：7月25日(火)～7月28日(金)
 各日14:00～16:00(4日連続受講)
 参加者：32名(一般成人)
 講 師：独立美術協会会友 山下智樹先生

絵画・彫刻などの制作の基礎となる石膏像デッサンの技術を学ぶ実技講座です。美術館の開館の年から始めて今年で17回を数え、毎年続けて受講される方も多い人気講座になっています。会場のスペースの問題で、定員を30名前後としているため、今年は多数の応募者のなかから抽選を行い、32名の方に受講していただきました。



県内外で活躍中の画家、山下智樹先生を講師に迎え、最初にデッサンの基礎を初心者にもわかりやすく教えていただき、ブルータスの胸像やミロのビーナス像などをデッサンしました。受講者はきわめて熱心で、和気あいあいとした雰囲気のおかげで、集中して取り組んでいました。

⑤夏休みこども博物館「なんでも相談室」

日 時：8月9日(水)～8月11日(金)
 各日10:00～17:00
 質問件数：19件(小・中学生対象)

学校の夏休みに合わせて、小・中学生の皆さんが日頃ふしぎに思っていることや、夏休み中に調べてみたいことなど、いろいろな質問や相談に学芸員が答える「なんでも相談室」を開きました。ふだんでも来館者からの質問にはお答えするのですが、この期間には特に博物館1階の休憩室にスペースを設けて学芸員が待機し、夏休みの自由研究のテーマなどについてアドバイスをしました。

質問のなかには「県内の希少野生生物の中で、佐賀城公園でみられるものについて教えてください(小5女子)」という専門的なものもあり、また小学校の先生が教材研究のために相談にいられたりもしました。

さまざまな普及活動を通して、当館としても県民の皆さんの生の声や素朴な疑問、博物館・美術館への御要望を聴くことができ、得るところは大きかったと思います。今後は普及活動全体をトータルにとらえ、より効果的な事業展開を考えることが必要であると思われまます。

これからはじまる展覧会

■博物館・美術館主催の展覧会

- ◎佐賀県立博物館30周年記念展 (有料、美術館2・3・4号展示室)
10/27(金)～12/3(日) 佐賀 2000年 - 名宝の旅
- ◎美術館常設特別展 (無料、美術館2号展示室)
12/15(金)～1/14(日) 20世紀を描く(前編) -風景-
1/17(水)～2/18(日) 20世紀を描く(後編) -人物-
- ◎美術館常設展 (無料、美術館2号または3号展示室)
12/6(水)～12/24(日) ビュッフェ回顧(銅版画) <3号>
3/8(木)～4/15(日) 春の美術館 -花- <2号>
- ◎博物館テーマ展示 (無料、博物館3号展示室テーマ展示コーナー)
10/13(金)～11/26(日) 「二千年前のできごと」(考古)
11/28(火)～1/14(日) 「佐賀の祭りのゆかいな面々」(民俗)
1/16(火)～2/25(日) 「鍋島更紗」(工芸)
2/27(火)～4/8(日) 「末盧国を掘る」(考古)

■その他の主な展覧会 (いずれも有料)

- 9/30(土)～10/9(月・祝) 第50回 佐賀県美術展 主催：教育庁文化課
<博2・3号、美1A・2・3・4号>
- 1/2(火)～1/28(日) 北京故宫博物院展 主催：佐賀新聞社 <美3・4号>
- 2/21(水)～3/4(日) 再興 第85回院展 主催：佐賀新聞社・(財)日本美術館<美2・3・4号>

日誌

■平成12年度博物館実習

期 間：6月19日(月)～6月30日(金)
実習生：12名

■教職員研修の受入れ

公立小・中学校新任教頭民間企業等派遣研修
7月24日～8月4日 1名
初任者研修「企業・福祉施設等体験研修」
7月25日 3名 7月28日 5名
公立小・中学校教務主任体験研修
7月27日～8月29日 10名 各3～5日間



博物館実習 (掛幅の取扱い)

佐賀県立博物館・美術館	第125号	平成12年9月18日
編集発行	佐賀県立博物館・佐賀県立美術館 〒840-0041 佐賀市内1-15-23	☎ 0952・24・3947 ☎ 0952・25・7006
印刷	(有)光版社	